

MRI・MRA検査(脳ドック)

MRI・MRA検査(脳ドック)とは？

KKCではMRI・MRA検査を使って脳ドックを行っています。
自覚症状のない脳のさまざまな病気を早期発見します。
専門の医師が脳の小さな腫瘍や梗塞、脳動脈瘤や血管の異常がないかを調べます。

MRI(磁気共鳴断層撮影)とは

“Magnetic Resonance Imaging”

の頭文字をとった略語です。

磁気と電磁波によって縦横斜め、あらゆる方向から
脳の断面画像を撮影する検査です。

小さな脳梗塞や脳腫瘍などの早期発見に適しています。

MRA(磁気共鳴血管撮影)とは

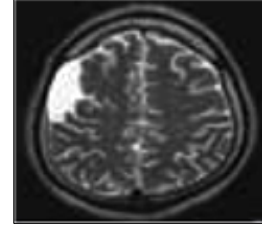
“Magnetic Resonance Angiography”

の頭文字をとった略語です。

太い血管が詰まったり細くなったりしていないか、
血管の状態を調べる検査です。

くも膜下出血の原因になる脳動脈瘤や脳動脈奇形などを
調べます。

MRIによる脳内画像

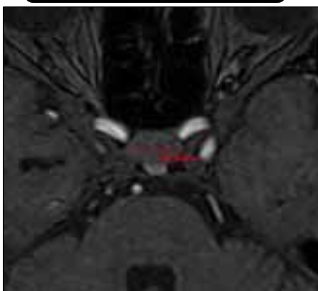


MRAによる脳血管画像

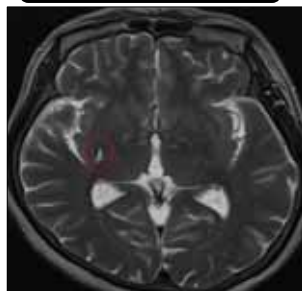


MRI・MRAで見つかった所見の一例とその解説

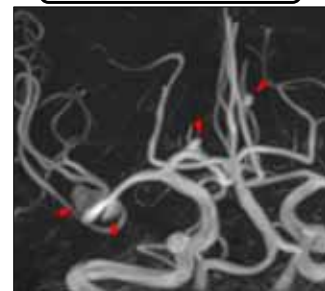
下垂体腫瘍



陳旧性脳梗塞



多発性脳動脈瘤



所見	解説
下垂体腫瘍	下垂体は両眼の奥のほうに位置し、脳の中央部からぶら下がるようにある臓器です。 下垂体からはさまざまなホルモンが分泌されているので腫瘍化した細胞の種類によって異なる症状が現れます。例えば成長ホルモンを産生する細胞の腫瘍では末端肥大症や巨人症などを発症します。 腫瘍が大きくなり視神経を圧迫すると、視野の一部が欠けるような症状が現れることもあります。
脳梗塞	動脈硬化の進行や心臓疾患などで生じた脳血栓、脳塞栓で血管が詰まって脳細胞に障害が起きることです。半身マヒや言語障害などの症状を引き起こす場合があります。3mm以上の脳梗塞を認め、無症状の場合を無症候性脳梗塞(かくれ脳梗塞)といいます。すぐに治療を要するものではありませんが放置すると進行することもあります。
脳動脈瘤	脳血管の一部がこぶのようにふくらむもので、血管壁の弱い部分に血圧の上昇などが重なって発生するといわれています。 未破裂の脳動脈瘤のある方はもともと種々の心血管リスクがあると考えられています。脳動脈瘤の破裂は、くも膜下出血の原因の70~90%を占めており、働き盛りの成人を突然襲うことでも知られる危険な疾患といわれています。

判定と解説

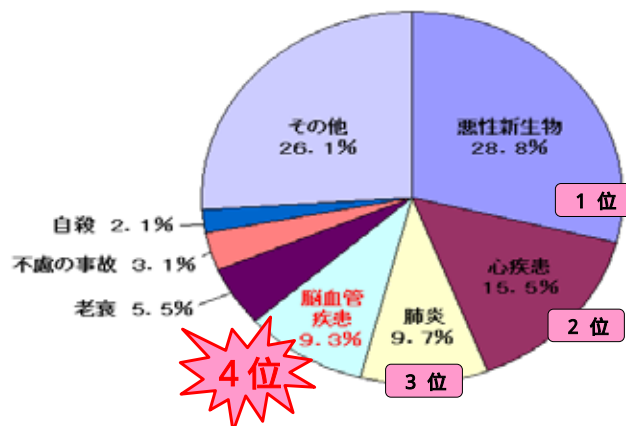
判定	解説
異常なし	今回の脳ドック検査では異常が認められませんでした。 今後は変化を確認する意味で3～4年に1回の定期的な検査をお受けになれることをお勧めします。
経過観察	すぐ治療を要するものではありませんが、1～2年に1回程度の検査をお勧めします。
要精密検査	専門医のもとでより詳しい検査をお勧めします。

脳梗塞予備軍！...かも...？

脳血管疾患は、肺炎に次ぐ日本人の死因第4位で、50代の約2人に1人が脳梗塞予備軍です。

40代の3人に1人、50代の2人に1人、60歳以上の8割もの方が、「かくれ脳梗塞（無症候性脳梗塞）」といわれています。

主な死因別死亡数の割合(平成25年)

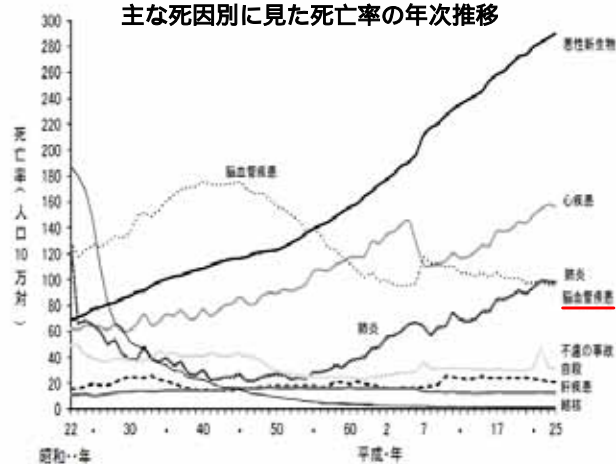


厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)

「平成25年人口動態統計月報年計(概数)の概況」(厚生労働省)

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai13/dl/gaikyou25.pdf>)
を加工して作成

主な死因別に見た死亡率の年次推移



厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)

「平成25年人口動態統計月報年計(概数)の概況」(厚生労働省)

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai13/dl/gaikyou25.pdf>)
より転載